

出題分析			
試験時間	100 分	配点	200 点
		大問数	4 題
分量 (昨年比較)	[減少] 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化] 同程度 難化]
【概評】 [Ⅰ] は例年通りの確率と複素数平面の小問集合で、(1) では積の構造を正確に読み取る力、(2) では z の逆像を求める典型処理が問われた。[Ⅱ] はベクトルの総合問題で、内分・外分の基本から内積の最大・最小まで一貫した誘導がある。[Ⅲ] は接線・面積・回転体の体積という微積分の王道テーマで構成され、計算力があれば完答しやすい。[Ⅳ] は極値・不定積分・不等式の証明・漸近評価と進む構成で、特に(4)は経験の少ない受験生には厳しい。全体として、典型問題を軸にしつつ後半で思考力を問うバランスのよいセットであった。			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
[Ⅰ]	〈空欄補充形式〉		
(1)	確率 ・ 反復試行の確率 ・ 条件付き確率	1 個のさいころを n 回投げて出た目に関する積の確率を考える問題。 $a_k = X_k - 4$ とおいて、 a_k の条件とすると考えやすい。	やや難
(2)	複素数平面 ・ 複素数平面と円 ・ 垂直二等分線	複素数平面上での変換に関する問題。 $w = \frac{1}{z}$ の変換を数式で表して考える。	やや易
[Ⅱ]	〈記述形式〉 平面ベクトル ・ 内分・外分 ・ 内積 図形と方程式 ・ 線形計画法	三角形と内積に関する問題。(4)の2変数多項式の恒等式においては、解答例のように1変数ずつ係数を比較すべきである。(5)は(4)の誘導に従って内積を計算し、 xy 平面における直線の y 切片の最大値・最小値を考える方法、すなわち線形計画法に頼ればよい。	標準
[Ⅲ]	〈記述形式〉 微分法 ・ 接線の方程式 ・ 最大・最小 積分法 ・ 面積 ・ 回転体の体積	y 軸の周りに1回転させてできる立体の体積を求める問題。全体を通して解きやすい問題であった。(3)以降の面積や体積を考える部分は日頃の演習時から「工夫をして求める」ことをしているかどうかで差が付きそうである。加えて、丁寧に計算することが重要である。	標準

〔IV〕	〈記述形式〉 微分法 ・極大・極小 積分法 ・部分積分法 ・定積分と不等式 極限	定積分と不等式に関する極限の問題. (2)は部分積分法を用いて計算していく. (3)は $y=f(x)$ のグラフより面積を比較して考える. (4)は2023年同志社大・理工 (2/10 実施) 〔IV〕に類題があり, 類題の経験がある受験生もいたかもしれないが, 考察量が多く, 解き切るのはなかなか難しかっただろう.	やや難
------	------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----

過去3年間の出題範囲

年度	数学 I				数学 A			
	方程式・不等式	集合と論証	2次関数	三角比	場合の数 確率	平面図形	数学と人間の活動	
2026					1			
2025					1			
2024					1			
年度	数学 II						数学 B	
	高次式	複素数	図形と方程式	三角関数	指数対数	微積	数列, 数学的帰納法	
2026			[2]					
2025			[2]			1	[3]	
2024				[2]			[2]	
年度	数学 III				数学 C			
	関数	極限	微分	積分	平面ベクトル	空間ベクトル	複素数平面	2次曲線
2026		[4]	[3], [4]	[3], [4]	[2]		[1](2)	
2025		[3]	[2], [4]	[3], [4]			[1](2)	
2024		[2], [4]	[3], [4]	[3]			[1](2)	[3]

※〔 〕内の数字は大問番号, ()内の数字は小問番号をそれぞれ表す.

合格のための学習法

まず微積分の典型問題は合否に大きく影響するため, 確実に完答できる力を身に付けてほしい. また確率・複素数平面では, 基本公式の運用だけではなく, 「なぜそうなるか」を理解する学習が重要である. 最後に, 計算ミスを減らすことが最も即効性のある対策である. 日頃から途中計算を丁寧に書き, 検算の習慣を付けることを強く勧める.